

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年4月16日

【2018年4月7日～2018年4月13日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対米ドルおよび対円で下落しました。また、2年国債金利は低下しました。米国のシリア攻撃を巡って地政学リスクへの警戒感が強まったことに加え、弱めの経済指標を受けて景気動向への懸念が広がったことが、こうした動きの背景となりました。

10日（現地、以下同様）に発表されたIPCAインフレ率は市場予想を下回る前年比+2.68%となり、前月からインフレが一段と鈍化しました。さらに12日に発表された小売売上高も、前月比の数字が市場予想に反してマイナスとなった上に、前年比も市場予想を下回る弱い結果となりました。こうした弱い経済指標を受けて、ブラジル中央銀行が金融緩和サイクルを長期化させるとの観測が広がったことが、通貨安と金利低下の要因として働きました。

9日に格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスはブラジルの自国通貨建て及び外貨建ての長期発行体格付けを「Ba2」に据え置き、格付け見通しを「ネガティブ」から「安定的」に変更しましたが、市場への影響は限定的でした。

【2】今週の見通し

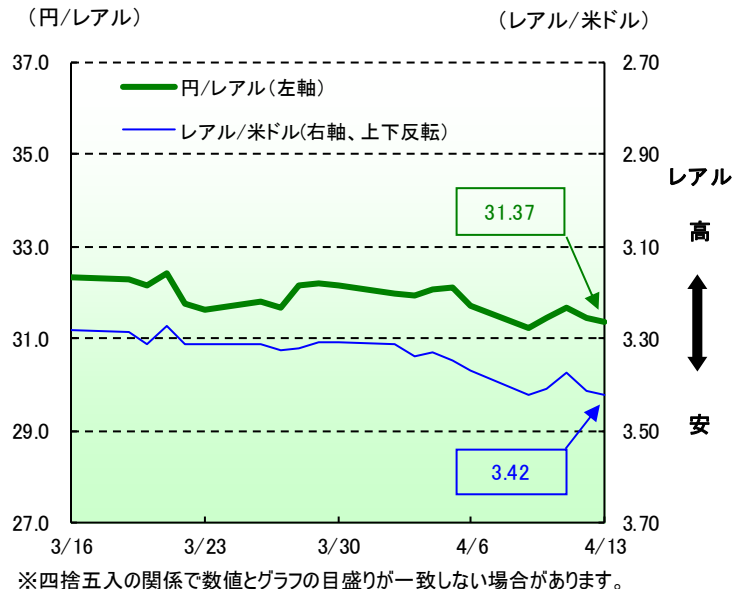
今週は経済活動指数やインフレ率（IPCA-15）などの経済指標の発表に注目が集まります。

経済活動指数の市場予想は現時点で前年比+0.8%程度で前月分（前年比約+3.0%）と比べて大幅に低くなっており、市場では弱い数字を既に織り込んでいます。一方、インフレ率（IPCA-15）については、市場予想が+2.8%程度で前月分とほぼ同水準となっています。発表された数字がこれらを下回る場合には、景気回復ペースの鈍化と低インフレ環境の継続により、金融緩和サイクルが一段と長期化するとの思惑から、通貨安および金利低下といった市場の反応も予想されます。

政治情勢につきましては、大統領選挙に関する複数の世論調査の結果が明らかになる予定となっています。今回はルラ元大統領が収監されてから初めての世論調査ということで、その他の大統領候補の支持率がどのように変化するかが注目されます。

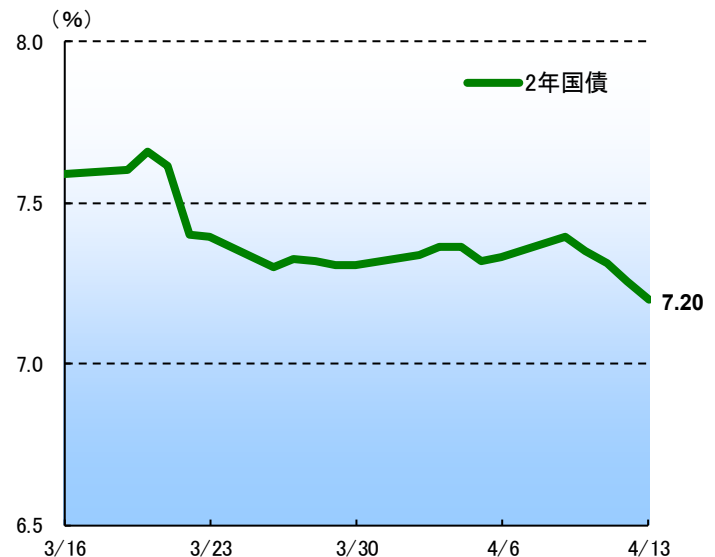
【ブラジル・レアル 為替推移】

（2018年3月16日～2018年4月13日）



【ブラジル 金利推移】

（2018年3月16日～2018年4月13日）



（出所：ブルームバーグより大和投資信託作成）

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>